

不況と戦争の時代（1931～1945）その5

《1932年、チャップリン初来日と5・15事件、翌年キングコング登場》

1930年代は、映画においても技術革新がありました。映像だけスクリーンに流れ、弁士が喋るという無声映画から、トーキー（音声付映画）といって現在と同じく映像と音声と同時に視聴できる映画に変わります。

チャップリンは、無声映画からトーキーにかけて、大活躍した俳優です。世界恐慌のときは、アメリカで「街の灯」（注2）を撮影していました。無声映画のスタイルを踏襲しながら、最新のトーキーに習って音楽を付けています。

そのチャップリンが、この映画の大ヒットを見届けると、世界旅行に出かけ、1932年（昭和7）、5・15事件（注3）の前日に日本に到着します。翌日15日は、犬養毅首相と会談する予定でした。チャップリンは、日本に敗退的文化を持ち込んだとして暗殺の標的でしたが、15日は、なぜか相撲見学に出かけ、事件には巻き込まれませんでした。

翌1933年（昭和8）に入ると、1月にドイツでヒットラーが政権を握り、3月にアメリカでルーズベルトが大統領になります。そして4月にアメリカで映画「キングコング」が、9月に日本で封切られました。特撮を取り入れたトーキーでした。

松竹蒲田撮影所（注1）は、1918年（大正8）に設立され、日本初の本格的なトーキーを製作しましたが、蒲田に町工場が増え、その騒音が録音のジャマになって、1936年（昭和11）、大船に移転します。

一方、蒲田の町工場は、現在、中小規模ながらも世界水準の技術を有しており、その技術を結集して“下町ボブスレー”を創作し、2018年冬季オリンピックではジャマイカ国が採用することになりました。

注1：松竹蒲田撮影所跡地は、高砂香料工業株式会社の工場となり、現在は、再開発され、ニッセイアロマスクウェアになっています。

注2：あらすじは、次の通り。

「浮浪者の男が、花売りの盲目女性に惚れ込み、金持ちを演じて取り込みます。富豪からお金を援助してもらい、目の手術をするようにと彼女に渡します。ところが、その富豪が強盗に襲われ、浮浪者の男が、無実の強盗罪で刑務所に入れられてしまいます。出所した男は、花売りの彼女に出会います。風貌ではわかりませんでしたが、手を握ると、かつての恩人であるとわかったのです。」

注3：5．15事件は、1930年（昭和5）に締結されたロンドン海軍軍縮条約に反発する海軍青年将校や、1931年（昭和6）に関東軍によって引き起こされた満州事変不拡大の政府方針に反発する陸軍士官候補生らが引き起こした事件。

写真は、①チャップリンの「街の灯」（Youtubeより細見コピー）、②5．15事件を報じる新聞（大阪朝日新聞記事、Wikipedia掲載資料）、③キングコング（You Tubeへの「Movieclips」投稿画像の一場面）

①



②



③

